

消化器内視鏡学

科目責任者：入澤 篤志（内科学（消化器））

I. 前 文

現在の消化器病診療（消化管診療，胆道・膵臓診療）において，消化器内視鏡は欠かせない診療機器です。多くの消化器疾患は，内視鏡を用いた診断を基に，適切な治療方針（内視鏡的治療，…外科的治療，放射線化学療法など）を立案します。すなわち，消化器病学を学ぶにあたって，消化器内視鏡で得られる画像や内視鏡を用いた治療（論理と具体的手技）をしっかりと理解しておく必要があります。しかしながら，必修科目としての行う「消化器」の講義内では消化器内視鏡に特化した内容に十分な時間を取ることができません。

本講座では，6回の講義を通して，消化器内視鏡を用いた診断と治療について，その基本から応用までわかりやすく解説します。また，実際の内視鏡や機器を用いてハンズオントレーニングを行い，実臨床での消化器内視鏡手技を体験してもらいます。

系統講義として行う「消化器」の補講的な役割を担うとともに，消化器内視鏡画像に対する苦手意識を少しでも解消できるようなプログラムとなっています。

II. 受入可能人数

3年生から5年生まで，消化器内視鏡学を学びたい学生を広く歓迎しますが，本講座は実際の内視鏡機器に触れながらインタラクティブに講義を行うため，6名ほどの受け入れ人数とします。

III. 担当教員

科目責任者	入 澤 篤 志	内科学（消化器）教授
担当教員	入 澤 篤 志	内科学（消化器）教授
	富 永 圭 一	内科学（消化器）准教授
	菅 谷 武 史	内科学（消化器）学内准教授
	山 宮 知	内科学（消化器）学内准教授

IV. 学習内容

現在用いられている消化器内視鏡に実際に触れていただき，消化器病診療における役割の概念を掴んでもらいながら，各臓器診療における消化器内視鏡診断と治療について講義を行います。これらの講義は，…実際の内視鏡機器ならびに内視鏡診療に使用するデバイス（処置具）に触れながらインタラクティブに行うことを基本とします。本講座では，リアルに消化器内視鏡診療の実際を学ぶことができます。

<授業計画>

- 消化器内視鏡学総論（内視鏡や処置具の構造と役割）2コマ
- モデルを用いた消化器内視鏡診療の実践 2コマ
- 内視鏡所見から考える臨床病態 2コマ

V. 学修の到達目標

1. 必修科目である「消化器」の理解を深め，…成績向上に繋げることができる。
2. 消化器内視鏡関連画像の苦手意識を解消できる。
3. 実際の内視鏡機器に触れて診断治療過程に携わることで理解を深める。

VI. 成績評価の方法・基準

口頭試問等により評価します。

全6コマ中，4コマ以上出席しないと評価の対象とはしません（単位を取得できないこととなります）。

VII. 使用する教材・資料など

教科書等は使用しません。実際の内視鏡機器を用いてのハンズオントレーニングも行います。

VIII. 質問への対応方法

基本的に質問は随時受け付けます。消化器内科医局（内線2726，平日9時から17時）に電話し，講義担当者のアポイントを取ってください。

IX. 求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

講義の中で基本から応用までを理解していただくようにします。

事後学習として講義の内容をまとめてください。(30分程度)

X. コアカリ記号・番号

PS-02-08 (-01～-05) , PS-03-04-14, …CS-01-01 (-01～-03) , CS-02-02 (-01～-04) ,
CS-02-03 (-01～-07) , CS-02-04 (-16,-17)

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

本講義では特に課題等は課しませんが，口頭試験に関しては講義の中で随時フィードバックを行います。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○